能登地震から50日

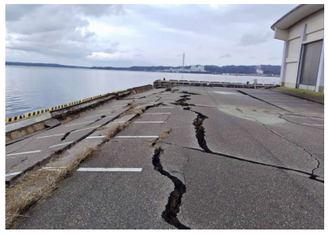
～ 七尾支部 茶畑委員長と話して ～

１月30日から31日、豊橋シーパレスで全港湾中央委員会がおこなわれました。中央委員会１日目に、日本海支部から地震の支援へのお礼、地震発生時の報告、そして現状報告がありました。

その夜、部屋飲みで偶然、七尾支部の茶畑支部長と同席しました。七尾支部のある組合員の日常生活について話されました。

地震が起こって以降、その組合員の日常は水を探すことです。家族のために「飲料水」「洗濯をするための水」「下水処理をするための水」これだけの水を一日中探すことが日課となりました。

この日本でこの様な現実が起こっているのです。顔も名前も知らないけど、仲間が困難な状況に直面しています。しかし、被災した皆は、「また日常生活が戻ってくるのを信じて今は踏ん張っている」と言ってました。



私はこれを聞いた時、何とも言えない気持ちになりました。私ができることは、この現実を私なりの方法で伝え、皆の団結をもって乗り越える。そして今も困難に直面している仲間のことをおもんぱかってほしく感じました。私たちも阪神淡路大震災に遭いました。そのことを今一度思い出すことが大切だと思いました。

（執行部　佐久原智彦）

全港湾日本海地方本部（日本海地区港湾・事務局長）山賀茂さんの被災地の支援行動を 終えての一文を紹介します。

去る、１月１日に発生した能登半島地震は、日本海地区においても石川県で震度７、富山県、新潟県は震度５強となり各地、各港で大きな被害となりました。幸いにも組合員全員の人命は確保されましたが、残念ながら親戚関係で亡くなられた方の報告等を受けています。亡くなられた方や被災された方々のご冥福とお見舞いを申し上げます。

私たちは日本海地区として、１月５日対策本部を立ち上げ、zoom による執行委員会を開催し、情報の把握に努めると共に報告体制の確認を行いました。また一日も早い復旧、復興と雇用と職域を守り、組合員が元の生活に戻れるように取り組む事を決定しました。併せて、上記を全国港湾と全港湾中央本部に連絡し、いち早く全国港湾、港運同盟を含め各地方、支部より多大なる義援金と激励を受けました。この事に関し心より感謝致します。

日本海地区港湾・鈴木議長(全港湾日本海地方本部執行委員長)は、山賀、小林と共に １月28日 (日) に金沢港、七尾港、伏木港に出向き、全国の仲間の激励と義援金を届けました。各地の委員長からは、未だ被災地組合員の中には避難所で生活する人や断水が継続している地域に住む人など平穏な生活が営めないなどの報告を受けました。また、私たちの職場である港も数か所の岸壁で隆起や陥没、地割れなどの被害にて、国、港湾管理者 から使用許可が下りていません。各省庁や自衛隊の支援船などが入港するに留まっています。

この取り組みにより各支部から、組合員の安心を取りしたいとする力強い言葉をもらい感銘を受けました。時間は掛かるかもしれませんが、日本海として団結して復旧、復興を成し遂げ、組合員に笑顔が戻るまで頑張ります。

だんけつ

第 380号　2024年 2 月 21日

発　　行
大 阪 市 港 区 築 港 1 － 1 2 － 2 7
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発 行 責 任 者　　國 分 仁 昭

大幅賃上げを勝ち獲ろう！

書記長　　吉馴 真一

はじめに、元日に石川県能登地方で震度7、新潟県でも震度6の地震が発生しました。

約2週間が経過した討論集会時点でも被災の全容がつかめないなか、安否がわからない人の捜索や必要な物資を届けるための道路の復旧などが急がれています。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。現在も被災地では、多くの方が不安な時を過ごされていることと存じます。被災地域の皆様の安全確保、そして一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

１月13日・14日、ホテルクライトン新大阪において「大阪支部２０２４年春闘討論集会」が開催されました。中央本部より松永書記長を来賓に迎え、各分会代表者と執行部、総勢52名が参加し24春闘のたたかい方について確認しました。

陣内副委員長による開会の挨拶がおこなわれ、田中浩二さん（ミナト産業分会）津村拓哉さん（朽木協鐵分会）の両名が座長に選出されました。支部代表挨拶を小林委員長がなされ、松永中央書記長から春闘オルグを受けました。吉馴書記長より２４春闘方針の提案がおこなわれ、２４春闘の重点課題としては、急激な物価高騰から生活をまもるためには、大幅な実質賃金の引き上げが必要不可欠であるとして３万円以上の要求額が提案されました。緊迫する問題としては4月からトラック運転手などの残業時間の上限規制が始まることで、労働時間が減るドライバーも、働きやすくなる一方で収入が減る懸念があり、賃下げなしの労働時間短縮を求めることが必要とされます。また、今回の能登半島地震を考えれば、万博開催は即座に中止し、南海トラフ地震対策の強化や被災地の復興支援、全国の防災対策を最優先させるべきであるとのべ、さらに労働者ならびに国民的諸課題、反戦、反核、平和と民主主義、環境を護るたたかいや、選挙闘争について提案されました。最後にたたかいの進め方や闘争体制の確立及び春闘をたたかい抜くための財政を確立するとして春闘カンパが提案されました。

その後、３班に分かれテーマを「賃上げ」として分散会がおこなわれました。

２日目、各分散会まとめ報告がありました。

A班は、２３春闘要求額が３万円に増額した結果について、参加者のほとんどが効果がみられなかったとありました。しかし一部の分会では要求額を上げることにより圧力がかかり例年以上の賃上げや労働条件の獲得報告もありました。また、春闘で求めるものは一番に賃金引き上げだが、無理な場合は、休みが欲しい。そのためには休みが取れる環境作りに人員補充もしっかり考えていきたい。その他、現場と支部との温度差が感じられる意見もありました。全体討論質疑として、春闘カンパはなぜ当り前のように取るのか、成果がでてから取るのはどうか。などのまとめ報告がありました。

B班では、支部要求額３万円以上は賛成であるが、実際、トラックの2024年問題、待機時間の問題など多数の課題もある。しかし物価高騰など考えると、会社の経営状況をみながら、春闘をたたかう必要があると考える。支部としてこの春闘は粘り強い要求・交渉

を必要とし、支部全体で、賃上げムードを高める必要がある。そして人員補充や、後補充にも力をいれ、分会のたたかう力を高める必要もある。以上のまとめ報告がありました。

Ｃ班、３万円はできない要求（現実味がない）でもあり、会社は実感として捉えてない、分会も無理だとわかっていて会社に要求しているところがある。春闘時期は旗を上げて腕章を巻くことによって賃金だけではなく条件も取れる可能性もあるので、強気な要求と昔のようなもっと強い要求で春闘交渉をおこなってはどうか。企業となれ合いになっているのではないか。早期に納得し妥協する金額が低いのではないか。など厳しい意見が出ました。若い従業員がいる分会は給料の底上げと人員補充を果たしていく気構えが高いのだが高齢化している分会は、ある程度給料があり金額に執着しないところもあり温度差がある。２４春闘は真に分会が納得できる金額の提示を要求し納得できない時は妥協せずに強い意志を持って今年の春闘勝利を目指します。以上のまとめ報告がありました。

続いて、各部会討論集会報告そして全体討論をおこないました。討論の中では発言をもとにして、全体で組織拡大は支部の最重要課題として再認識するとともに、拡大の大きな可能性がある分会の現状報告がありました。また近々の運動として反原発運動や反戦運動などの報告があり、中央団交が近年長引いている理由や産別運動の重要性については、松永中央書記長から説明をいただきました。

最後に、要求額については、さまざまな意見がでましたが近年の物価高騰から生活を守るために私たちが必要とする額を求めていくとして基本給一律３万円以上。また、カンパについて結果がでてからとの意見がでましたが、要求するだけで賃上げや労働条件を確立できる企業は皆無であり、やはりそれまでの要求達成に向けた取り組みや行動（中央行動を含め）など経過が重要であるとして、春闘方針を軸にたたかい抜くこと、そしてそのための財政確立としてカンパ（被災支援カンパを含む）を実施すること。以上を全体で確認したうえで、小林委員長による団結がんばろうで締めくくりました。

分散会　A班　主な意見

○春闘で、どうベアに絡めていくかやっていきたい。
○物価高に比べ、昨年の春闘は思ったほど上がらなかった。仕事量にも変化あるがもう少し上げてくれてもよかったと思う。
○生活がカツカツで決して満足していないので、今春闘は自分も頑張りたい。
○他の分会の話を参考にして経験、学習して交渉できるようになりたい。
○社員数を考えると３万円の賃上げは厳しいが上げてくれてもいいと思う。
○会社の形態を見ると金額より人員補充など獲得した方がいいと個人的に思う。
○年齢層も高齢化して人員補充や後補充に力を入れたい。
○お金ないと生活できないし休日も遊べない。給与アップが理想。
○賃金低いので約10名が離職。給与上げても会社は潰れないと思う。

分散会　B班　主な意見

○鋼材の輸送が忙しいが待機時間が長いし、運転手不足を解消していきたい。
○集団交渉で他の分会を見ても妥結が早い気がする。会社に圧力かけて粘り強く交渉と付帯要求をしていく。
○昇給制度がなく手当で基準内賃金を引き上げていきたい。
○荷物の減少で要求しづらい。世論の同調を利用して賃金アップを獲得していきたい。
○全国に営業所があり、大阪単独で運賃交渉ができないが賃金は上げたい。
○会社は黒字みたいで、人員補充も２名決まっているが、メーカーからの納車が未定なので、補充できていない。
○人の入れ替わりが激しく、外国人労働者が増えている。仕事のミスが多い。

分散会　C班　主な意見

○賃上げに対する考えは港湾、車両によって違うと思う。春闘始まる前から無理だと思っている人もいる。なれ合いな交渉で昔のような強気な交渉をしていない。
○賃上げ方針はいいが、現実とかけ離れていると気持ちが離れてしまう。
○過去に大きな合理化があり、賃金を戻すという希望が薄れてきた。高齢化が問題だが補充はむずかしい。
○物価高で賃上げを会社も承諾してくれたが、若者が離職しない体制を進めたい。
○昔の給与に戻っていないが会社の負債がなくなれば戻してくれると思う。
○毎年の春闘で昨年以上は獲得しているので今年は昨年以上は獲得できると思う。
○支部要求金額は初めから会社は無理ですというところから交渉が始まる。
○元請けから仕事をもらっている立場なので運賃、賃金も元請け次第と感じる。
○子育て世代と定年近い世代では賃上げに対して温度差がある。
○旗上げて（支部を挙げて）春闘を闘ってもらいたいし、闘いたい

2024　元旦行動

１月１日、反弾圧実行委員会が主催する「元旦行動」が、大阪府警本部前でおこなわれました。

大阪支部からは執行部６名が参加しました。主催者によると約５００名参加と発表があり、参加者のなかには大阪支部ＯＢも多数おられました。

元旦行動も、今年で６年目となり、参加者には報道関係者や女性の姿も目立ち、全体的に若年層の参加者が増えた印象でした。

集会スタート

反弾圧実行委員会代表の小林委員長からあいさつで、「労働組合弾圧に対し皆が団結し、運動強化する重要性」について話しました。その後、各団体より連帯アピールやシュプレヒコール、「法円坂５５」による演奏があり、90分の集会は無事終了しました。

最後に

昨年は、ストライキについて考えさせられる１年になりました。大手百貨店や病院、放送機関、航空会社（能登地震のためスト中止）など他にもたくさんの労働組合員がストライキをおこないました。世間的にストライキをすることが犯罪として扱われる風潮となっており、実際に逮捕訴追される仲間

がいることも事実です。この件については国連人権理事会からも懸念を示されるくらい深刻な問題です。産業別労働組合として労働運動強化拡大について、今年も皆さんと共に頑張って行きたいと思います。

（執行部　佐久原 智彦）

支部新春旗開き

支部新春旗開きが、１月10日17時30分より、第１センターで、来賓合わせて約１２０名でおこなわれました。

まず、支部青年部の元気な「港湾労働歌」合唱があり、その後、第１部の司会である吉馴書記長の開会あいさつで2024年の旗開きが始まりました。

小林委員長の年頭のあいさつでまず、１月１日に発生した能登半島地震にふれ、「亡くなられた方がたに心からお悔やみ申し上げとともに被災された全ての方がたにお見舞い申し上げます。」と話されました。

その後、来賓の方がたのあいさつが行われたのちに、18時より第２部に入り、司会を関谷書記次長に代わり、乾杯の音頭を大港労協の小嶋議長がされ、少し歓談をし、毎年好評のビンゴゲーム大会が行われました。参加者全員、出る数字にドキドキ、ヒヤヒヤ、大いに盛り上がりました。

ゲーム大会終了後に閉会あいさつを陣内副委員長がなされ、最後に小林委員長の団結ガンバローで2024年支部新春旗開きを終了しました。

（執行部　竹山 保彦）